

| | | | | | | | | | | | | | | | | |
|------------|----|--------|--------|--------|--------|---------------------|--------|------|------|------------|------|----------------------|--------|--|-----------------------|---------------|
| 後奏 感謝祈祷 | 報告 | 祝 禱 | 頌 栄 | 献 金 | 賛 美 | 説 教 | 聖書朗読 | 使徒信条 | 礼拝祈祷 | 交 読 | 主の祈り | 賛 美 | 賛 美 | 「見よ、闇が地をおおっている。暗黒が諸国の民を。しかし、あなたの上には主が輝き、主の栄光があなたの上に見える。」アーメン | 前奏 招詞 イザヤ書60章2節 | 1月29日 聖日礼拝 |
| | | | 聖歌376 | | 聖歌40 | 40章16〜38節 荻野泰弘牧師 | 出エジプト記 | | | 詩篇48篇1〜11節 | | 聖歌134 イエスの血潮で(2回) | | | | |

■聖歌134「おおくのかむり」

- ①おおくのかむり いざささげよこひつじは座せり 高き御座に
わがたましい うたえたかく みがわりとなりし 主なるイエスを
- ②おおくのかむり いざささげよ はじめよりありし 神なる主に
君はわれの うき悩みを つぶさに知りたもう 神にぞます
- ③おおくのかむり いざささげよ たたかいに たけき 勝利の主に
墓も よみも やぶれはてぬ まことのいのちは ただ主にあり

■イエスの血潮で (★→※→★→※→★の順序で歌う)

★イエスの血潮で 救われ 癒(いや)され 天の御国へと 導かれる
イエスの血潮で 赦され 満たされ 尊い その血潮で

※天の父と こひつじイエス ひざまずき歌う 聖なる御名
全地は歌う あがないの歌 栄光は主にあれ

■主の祈り 天にましますわれらの父よ。ねがわくは 御名^みをあがめさせたまえ。御国^{みくに}をきたらせたまえ。御心^{みこころ}の天になるごとく、地にもなさせたまえ。われらの日用^{にちよう}の糧^{かて}を今日もあたえたまえ。われらに罪をおかすものを われらが 赦すごとく、われらの罪をも赦したまえ。われらを ころみにあわせず 悪より救いいたしたまえ。国と力と栄えとは かぎりなく なんじのものなればなり。アーメン

■交読 詩篇48篇1～11節

- 1 主は大なる方。
大いにほめたたえられるべき方。
主の聖なる山
私たちの神の都で。
- 2 高嶺（たかね）の麗しさは 全地の喜び。
北の端（はし）なるシオンの山は大王の都。
- 3 神はその都の宮殿で
ご自分を砦（とりで）として示された。
- 4 見よ 王たちは集って
ともどもにやって来た。
- 5 彼らは見ると驚き
おじ惑い 慌てた。
- 6 その場で震えが彼らをとらえた。
子を産むときのような激しい痛みが。
- 7 東風（ひがしかぜ）によって
あなたはタルシシュの船を砕かれる。
- 8 私たちは聞いたとおりを見た。
万軍（ばんぐん）の主の都 私たちの神の都で。
神は都をとこしえに堅く立てられる。セラ
- 9 神よ 私たちはあなたの宮の中で
あなたの恵みを思いました。
- 10 神よ あなたの御名と同じく
あなたの誉れは地の果てにまで及んでいます。
あなたの右の手は義に満ちています。
- 11 あなたのさばきのゆえに
シオンの山が喜び
ユダの娘たちが楽しめますように。

■使徒信条 われは天地のつくりぬし、全能の父なる神を信ず。われはそのひとりご、われらの主、イエス・キリストを信ず。主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤよりうまれ、ポンテオ・ピラトのもとにくるしみをうけ、十字架につけられ、死にてほうむられ、よみにくだり、三日目に死人のうちよりよみがえり、天にのぼり、全能の父なる神の右に座したまえり。かしこよりきたりて 生けるものと死にたるものとを さばきたまわん。われは聖霊を信ず。聖なる公同の教会、聖徒のまじわり、罪のゆるし、からだのよみがえり、とこしえのいのちを信ず。アーメン

■聖書朗読 出エジプト記40章16～38節

- 16 モーセは、すべて主が彼に命じられたとおりに行い、そのようにした。
- 17 第二年の第一の月、その月の一日に幕屋は設営された。
- 18 モーセは幕屋を設営した。まず、その台座を据え、その板を立て、その横木を通し、その柱を立て、
- 19 幕屋の上に天幕を広げ、その上に天幕の覆いを掛けた。主がモーセに命じられたとおりでである。
- 20 また、さとしの板を取って箱に納め、棒を箱に付け、「宥めの蓋」を箱の上に置き、
- 21 箱を幕屋の中に入れ、仕切りの垂れ幕を掛け、あかしの箱の前をさえぎった。主がモーセに命じられたとおりでである。
- 22 また、会見の天幕の中に、すなわち、幕屋の内部の北側、垂れ幕の外側に机を置いた。
- 23 その上にパンを一行にして、主の前に並べた。主がモーセに命じられたとおりでである。
- 24 会見の天幕の中、机の反対側、幕屋の内部の南側に燭台を置き、
- 25 主の前にもしび皿を掲げた。主がモーセに命じられたとおりでである。
- 26 それから、会見の天幕の中の垂れ幕の前に、金の祭壇を置き、
- 27 その上で香り高い香をたいた。主がモーセに命じられたとおりでである。
- 28 また、幕屋の入り口に垂れ幕を掛け、
- 29 会見の天幕である幕屋の入り口に全焼のささげ物の祭壇を置き、その上に全焼のささげ物と穀物のささげ物を献げた。主がモーセに命じられたとおりでである。
- 30 また、会見の天幕と祭壇との間に洗盤を置き、洗いのために、それに水を入れた。
- 31 モーセとアロンとその子らは、それで手と足を洗った。

- 32 会見の天幕に入るとき、また祭壇に近づくとき、彼らはいつも洗った。
主がモーセに命じられたとおりである。
- 33 また、幕屋と祭壇の周りに庭を設け、庭の門に垂れ幕を掛けた。こうしてモーセはその仕事を終えた。
- 34 そのとき、雲が会見の天幕をおおい、主の栄光が幕屋に満ちた。
- 35 モーセは会見の天幕に入ることができなかった。雲がその上にとどまり、主の栄光が幕屋に満ちていたからである。
- 36 イスラエルの子らは、旅路にある間、いつも雲が幕屋から上ったときに旅立った。
- 37 雲が上らないと、上る日まで旅立たなかった。
- 38 旅路にある間、イスラエルの全家の前には、昼は主の雲が幕屋の上に、夜は雲の中に火があった。

■聖歌40「聖なるかな」

- ①聖なるかな 全能の神 われら朝まだき ほめまつる
みつにまして ひとりの神 愛にみつる 強き主を
- ②聖なるかな 聖徒たちも みつかいたちも こうべをたる
昔いまし 今も いまし また とわに ます神に
- ③聖なるかな 罪ある目は なが み栄えを 見まつらねど
力と愛と きよきことの まどかさ たぐいあらし
- ④聖なるかな 全能の神 つくられしものは ほめたとう
三(み)つにまして ひとりの神 愛にみつる つよき主を

■頌栄 聖歌376「父 御子 御霊の」

父・御子・みたまの おおみかみに とこしえかわらず
御栄えあれ 御栄えあれ アーメン